

誌面だけでは終わらない素敵な話

〜やまだひさしさんインタビュー延長戦〜

語ること、知ること、伝えること。
きつと、ラジオだからできること。

自分を語るパーソナリティから
誰かを語るイタコに!?

誌面ではすべてを伝えきれなかったやまだひさしさんのインタビュー。まだまだ伝えたい話があると訴えると、編集長の鶴の一声で、HPに場所を移しての延長戦が決定。改めて、素敵な話の続編をお届けします!

「パーソナリティって、自分のことを語ってさらけ出して共感を得ていくFM派と、選曲とかのセンスで自分を表現していくFM派がいるんだけど、僕はFMで番組持っているのにAM的なパーソナリティだったんです。でも、あの震災が起きて、自分のことを語っている場合じゃないと思ってね。そこがそもそも始まりだったのかな」

TVから流れてくる映像に愕然としたと言うやまださん。けれど、そのあまりにも信じられない光景に、最初は実感が沸かなかつたとも。そんなやまださんに転機をもたらしたのはいつも身近にいる番組スタッフだった。

「福島出身のスタッフがいて、彼の話聞いてるうちに、その苦しみやつらさに自然と共感できている自分がいた。だったら、それを語っていいこうって。被災した人たちの声を代弁していいこうって。自分を語るの

パーソナリティなら、リスナーのパーソナルを語るイタコみたいなパーソナリティがいてもいいんじゃないかってね(笑)」

やまださんが語る話に、被災地以外の人々が共感し、被災地へと手を差し伸べていく。繋がりはあつたという間に広がり、たくさん素敵な話が生まれていった。

ずっと語り継いでいきたいから、
山下達郎を目指す!?

今回の件で、発信することの大切さを改めて感じたというやまださん。そこにはこんなエピソードもあった。

「そもそもラジオで話していたことを本にするなんて発想は僕にはまったくなかった。たまたまリスナーに出版社の倉庫で働いている人がいて、その人が僕のラジオのことを出版社の人に話してくれて、繋がって、気がつけばこんなことに(笑)。本を出版した後だって、飲食店をやっているリスナーさんが、まとめ買いしてお店で売ってくれたりね。僕が発信したことを、誰かが受け取って、それをまた誰かに発信してくれて、そうやってどんどん繋がっていく。そのパワーって本当にスゴイ。それを身をもって実感しました」

本を置いてくれた飲食店で即席サイン会をしたり、



『永遠に語り継ぎたい3.11の素敵な話』
1,260円/ばる出版
印税全額を被災地に寄付。現在、100万円の寄付を実現させるべく、売上1万部以上の突破を目指す。

「LINEでリスナーと情報交換をしたり、やまださんの『発信』はラジオだけに留まらない。そんなやまださんの野望(笑)を最後にご紹介しておこう。

「山下達郎さんのクリスマス・イブって、必ず12月になると流行るでしょ? あんな風にこの本が毎年3月になるたびに本屋さんに並ぶといいなって思ってる。3・11を忘れないためにね。でも、僕が語り継ぎたいのは震災の悲惨さじゃなくて、あの日をきっかけに繋がった人と人の絆について。だって、本当に忘れたくない素敵な話だからね」



『I'm a Radioman』
1,260円 5月11日発売



TSUTAYA赤坂店でのサイン会には行列が。その後も、サイン会をするたび行列ができ、本も完売しているというからすごい。

●やまだひさし/ラジオパーソナリティー
2000年5月、第37回ギャラクシー賞ラジオ部門D「パーソナリティー賞」受賞。TOKYO FM「シナプス」は月-木の13:00-15:55絶賛生放送中。13日目に突入したJFN系列全国38局ネットプログラム「やまだひさしのラジオンリミテッドF」は、毎週金曜深夜25:00-29:00で生放送中。本業である声の仕事(ナレーション、声優、MC)などの他に、環境問題にも積極的に取り組み、環境省とラジオやメディアでタグを組んだ様々な環境イベントの総合プロデュースも2003年より担当。